

グループホームだんらん 令和 7 年度 地域連携推進会議
議事録

2025 年 9 月 20 日(土) 13 時～15 時

@栗山地区集会所 やすらぎの家

出席者:7 名

入居者、入居者家族、民生委員

NPO 法人希望 理事長、グループホームだんらん管理者、グループホーム支援員、グループホームだんらんサービス管理責任者

1 はじめに(管理者より)

会議の背景、目的の説明

個人情報等の取り扱いのお願い

会議録公表について

2 自己紹介

各参加者自己紹介

3 事業所紹介(管理者より)

<運営母体 NPO 法人希望について>

・平成 11 年に精神障害者家族会「ホープ」により「どんぐり工房」が始まった。

・平成 18 年 NPO 法人格を取得。NPO 法人希望を設立。

↳法人の目的:精神に障害を抱える人たちに対して保健・福祉の向上を図る事業を行い、障害者が地域で自立して生活できるように支援すること。

令和 7 年度 会員約 50 名

・どんぐり工房の運営は家族会「ホープ」から NPO 法人希望となり、現在に至る

・平成 25 年 B 型作業所の開設に着手するも、諸般の事情で断念

<グループホームだんらん(共同生活援助事業)について>

・平成 29 年 11 月 1 日 オーダーリースで開設

・介護サービス包括型

定員 6 名(令和 7 年 9 月現在 延べ 9 名利用) 現在満室

1 部屋 約 5.2 畳 全室独立した浴室、トイレ、クローゼット、エアコン等は完備

テレビやラジオは個人で用意

リビング(共有スペース)にはテレビあり

入居費 95,000 円

居室使用料 5.5 万円(市より 2 万、県より 1 万円の補助あり)

食費約 2 万円、水光熱費 1.9 万円、日用品費 1 千円 2 か月ごとに清算、余剰金は返金

・支援方針は「入居者一人一人が自分らしく安心して生活できるよう支援する」

・職員数 10 名

管理者（常勤） 1 名

サービス管理責任者 1 名

世話人（主に食事作り） 4 人

支援員（通院同行や生活支援） 2 人

世話人・支援員兼務 2 人

世話人 160 時間/1 か月 支援員 概ね 180 時間以上/1 か月

※入居者の区分により変更有

・営業時間 365 日 24 時間体制

・職員配置時間 朝 5 時（土日は 6 時半）～20 時（日 19 時）

・夜間や緊急時には、職員に直接電話で連絡

・運営費：国、都道府県から助成

<入居者について>（管理者より）

男性 4 名（知的障害、強迫性障害、統合失調症）

女性 2 名（統合失調症、双極性障害）

地域活動支援センター通所 4 名

就労継続支援事業所 B 型通所 1 名

一般就労 1 名（勤続 30 年）

平日は、通所 or 就業 帰宅後及び土日、祝日は自由に過ごされている

余暇支援として、昼食作り、お菓子作り、買い物支援、外出支援を実施

季節ごとのイベントも企画（クリスマス会、カラオケ会、地域の夏祭り等）

地域の防災訓練にも参加

<権利擁護・サービスの質の向上のための取り組みについて>（管理者より）

入居者が「なりたい像」に寄り添い、「日中の憩いの場」から「自分で収入を得るための場」を模索し、地域活動支援センターから就労継続支援事業所 B 型への移行の支援を行ったケースあり。

「自立（自律）支援」を心掛け、買い物や洗濯、金銭管理のサポートを行っている。

<研修状況>（管理者より）

・苦情解決研修 実施

・虐待防止研修 実施

↳グループホーム内の虐待防止委員会は毎月開催

日常の支援の中での小さな場面にも目を向け、虐待に繋がることはないか？など自己点検、職員同士の相互点検を心掛けている。

・権利擁護研修 実施

・災害訓練(地震と火事を想定した訓練)実施

<支援の質の向上のための取り組み>(管理者より)

毎日勤務している職員が「日報」で記録を作成

日報だけでは伝わらないことについては、日々管理者と職員で申し送り及び引き継ぎ時間を作り、情報共有、意見交換を行っている。

職員全員が一堂に勤務することがないので、数か月に 1 回スタッフ会議を実施し、支援に関する研修を含め、日常での困りごとの共有、支援の方向性の統一を図っている。

ご家族とのやり取りも、できる限り「事実」をお伝えし、ご本人に対して職員がどのような支援を行ったかもお伝えしている。

ご家族より) 気分の波があるので、その出来事、場面では注意してもらって構わない。

ちゃんとその場で指摘してもらった方がいい。

<これまでにあった事故事例の報告>(管理者)

・入居間もないころに通所先にバスに乗って通所する際に、転倒してしまい骨折された。

・夜中に、雨の中、傘もささずにパジャマで歩いていたところ、それを見た通行人が警察に通報がされたようで、警察に保護されて、パトカーで帰宅。本人はただ買い物に出かけたつもりではいたが、通行人が心配して通報された。

本人にけがや体調不良はなかった。

<その他意見交換>

民生委員) 地域で暮らしているので、入居者の方に対して、大人の方なのに、小さな子に話しをするようにしたりして、それは良いのかな? と思ったりしている。それは差別していることなのかな? と思うこともある。

管理者、GH 職員) おはようと声は積極的にかけていただけると嬉しい

ただ、相手を認識できず、反応しないこともある。別に無視しているわけではない。

声をかけようかな、かけた方がいいかなと地域の方も思われているのかもしれない

民生委員) 良い意味でも悪い意味でもだんらんの話題は(近隣では) でない。特別な感じはない。

管理者) 「大きな声で」というのではなく、「元気な声で帰ってくる人ですね」とおっしゃっていただいている。

地域の方に気遣いを頂いているのはあり難い。

民生委員) 民生委員のところには要支援者名簿が届いているが、グループホームは別ですか?

管理者) グループホームとして、個別に計画を立てる必要がある。

福祉避難所の中で、避難生活が送れるかというのは難しいかもしれない。

グループホーム内で自主避難的な生活を送ることになる。

ただ、職員がグループホームに向かえないこともあるので、地域の方の支援が必要になる。

過去、停電があって、自宅に帰れない方は 2 名残っていた。

1 週間停電。入浴もできなかったため、管理者宅を開放し、入浴してもらった。

水や非常食の確保はローリングストックを意識して、準備をしている。

民生委員) この地域は古くからお住まいの方と新しい方と混在しているので、防災の考え方は一致していない。

地域として非常食として準備しているものはない。

管理者) だんらんはプロパンガス。

安全な場所を確保して、地域でも顔見知りになっていただけるとありがたい。

ただ、入居者の個人情報の扱いが難しい面もある。

サビ管) 障害者グループホームを設立する中で、様々な地域で摩擦が起きやすい、起きているが栗山はうまくいっている。

管理者) 住民説明会を実施した際に、当時の区長が声をかけて住民の方を集めてくれた。

皆さんから温かく迎えてもらった。

親元を離れて自立しようと思っている・温かく見守ってくださいとお伝えした。

民生委員) (だんらんは) 自ら進んで地域に開いてくださっているのも大きい。

内覧会、地域のイベントにも参加して、接点がたくさんあるからだと思う。

<今後について>

管理者) 今後も地域のつながりを持つために、年に1回、推進会議の出席をお願いしたい。次年度もよろしくお願いします。

<閉会に際して>

理事長) 地域に根付いた施設にしていきたい。引き続き行事に参加して交流を深めていきたい。

終了